

学 習 指 導 案

H R	2年1組	教室	201教室	日時	平成16年5月31日(月)第2限		
単元	第1章 平面上のベクトル	教科書	数学B(数研出版)	指導者	(省略)		
単元目標	1 ベクトルの相等の意味、加法、減法、実数との積の意味を理解させ、計算に習熟させる。 2 座標平面上のベクトルを成分で表し、その計算法則や基本的な性質を理解させる。 3 ベクトルの内積を定義し、その意味と計算法則を理解させる。 4 位置ベクトルの考えを導入し、問題を考えるための有効な手段の1つであることを認識させる。	指導計画	第1節 平面上のベクトルとその演算 …… 9時間 (本時はその5時間目) 第2節 ベクトルと平面図形 …… 10時間 演習問題 …… 2時間				
本時の目標	1 ベクトルの成分表示を定義し、成分によるベクトルの演算を習熟させる。 2 任意のベクトルと実数の組 (a, b) が1対1に対応することを理解させ、これにより、ベクトルを代数的に取り扱えるようにさせる。						
課題	教科書P17～19を予習してくる。						
本時の指導	学 習 内 容		分	指 導 上 の 留 意 点	資料等		
	導 入	2つの平行でないベクトルの和と実数倍によって、任意のベクトルはただ1通りに表すことができることを確認する。	5分	知識・理解 既習事項が理解できているか。			
	展 開	1 ベクトルの成分表示を定義し、その基本的な性質の説明を行う。 2 練習8を解く。 (ベクトルを成分で表す問題)	10分	・ 平面上の任意のベクトルと実数の組 (a, b) が1対1に対応していることを理解させ、これによりベクトルを代数的に取り扱えるようになることを理解させる。 数学的な考え方 1対1対応の意味が理解できたか。	プリント		
	開 導	3 ベクトルの成分による和と実数倍を定義する。 4 例5を説明し、練習9を解く。 (成分によるベクトルの演算)	10分	・ 演算の公式に沿って計算できるように指導する。 表現・処理 計算が正しくできているか。			
	整 理	1 本時のまとめをする。 2 次時の予告をする。	5分	・ 成分での演算の確認を行い、次時の予告を行う。			
備考	生徒数 27名 (男子 16名・女子 11名) 理系クラス						

